

11. 芸術文化学部・ 芸術文化学研究科

(1) 芸術文化学部・

芸術文化学研究科の研究目的と特徴 11-2

(2) 「研究の水準」の分析 11-3

分析項目Ⅰ 研究活動の状況 11-3

分析項目Ⅱ 研究成果の状況 11-8

【参考】データ分析集 指標一覧 11-9

(1) 芸術文化学部・芸術文化学研究科の研究目的と特徴

1. 芸術文化学部・芸術文化学研究科の概要

芸術文化学部は、前身となる高岡短期大学（昭和 58 年開学）が、平成 17 年 10 月に富山県内の 3 国立大学（旧高岡短期大学、富山大学、富山医科薬科大学）が再編・統合により、新富山大学に設置されている。さらに、平成 23 年度に大学院芸術文化学研究科が設置された。

2. 芸術文化学部・芸術文化学研究科の基本方針

芸術文化学部は、芸術文化芸術文化に対する感性と幅広い分野の知識・技術を活用し、人間と自然や社会との関わりを見つめ、そこに存在する数々の問題を発見し、解決しようと自発的に行動する意欲的な人材の育成を目的としている。

芸術文化学研究科は、総合芸術を基盤とした人間の文化活動全般を教育研究の対象とし、独自の表現法とその成果の社会的活用という観点から多角的な研究手法による実践的研究を通じて、これからの社会において、学芸の深化を実現させる教育研究を通し、芸術の成果を活用して心豊かな地域文化を創生するために、先導的役割を担う人座を養成することによって社会の創造性を強化することを目的としている。

3. 芸術文化学部・芸術文化学研究科の組織概要

本学部・研究科には、美術（絵画、彫刻）、建築、デザイン、工芸など、作品を制作・発表を行うことが研究成果となる分野から、学会等で論文（研究成果）発表を行う分野まで幅広く様々な研究分野の教員が所属している。

4. 芸術文化学部・芸術文化学研究科の特色ある研究目標

本学部では、従来の芸術における教育研究だけではなく、幅広い問題解決能力の教育と当該研究を、研究科では多角的実践的教育と研究を目指し、芸術文化による地域課題の解決にかかわる教育研究を行うこととしている。更に「地域の伝統文化」、「地場産業」をキーワードに、広く社会活動ができる教育研究を推進している。

研究科では、「先導的専門職業人」育成の教育研究を目指して、これらを実践するために「地場産業製品開発、芸術文化資源活用」などの研究を深化させ、総合的研究組織を推進することを目指している。

富山県は、銅器、漆、木工、和紙、菅細工などの伝統産業が根付いているが新商品の開発や後継者問題などの課題、地域文化資源を活かす地域創成及び地域の活性化などの課題が山積しており、本学部・研究科では、これら地域の課題を芸術文化の専門性、柔軟な発想、クリティカルな思考により問題解決を図るための教育研究を行っている。

(2) 「研究の水準」の分析

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

<必須記載項目 1 研究の実施体制及び支援・推進体制>

【基本的な記載事項】

- ・教員・研究員等の人数が確認できる資料（別添資料 3711-i1-1）
- ・本務教員の年齢構成が確認できる資料（別添資料 3711-i1-2）
- ・指標番号 11（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 木工、漆工、金工、胡粉彩色などの各素材における技術研究・調査・データの収集を行い、今後の文化財保存修復の科学的なノウハウを確立し、実践的な経験を通じた人材育成を行う組織の設置について検討を行った結果、林卓越教授を中心とした技藝院（文化財保存・新造形技術研究センター）を学部附属組織として令和2年度に設置することを決定した（別添資料 3711-i1-3）。（卓越教授：専門分野において特に優れた業績を挙げ先導的な役割を果たしている教授に付与する称号（令和元年度新設）） [1.1]
- 研究の質の向上と科学研究費助成事業申請率向上に向けた学部独自の支援策として、申請のポイントや採択率向上に向けた研究会を、平成28年度から令和元年度に合計9回実施した（別添資料 3711-i1-4）。また、平成29年度より、従来は一律で配分していた研究費について、一部を科学研究費助成事業申請者に追加配分する方法に変更した。これにより平成30年度、令和元年度は申請数100%以上（継続申請を含む）を達成している。 [1.1]

<必須記載項目 2 研究活動に関する施策／研究活動の質の向上>

【基本的な記載事項】

- ・構成員への法令遵守や研究者倫理等に関する施策の状況が確認できる資料（別添資料 3711-i2-1～9）
- ・研究活動を検証する組織、検証の方法が確認できる資料（別添資料 3711-i2-10～14）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 漆で加飾したサクソフォンについて、音響特性も含めた音質の向上を目指した研究を行っている。学生の卒業制作から発展したもので、伝統技法と西洋楽器を融合し、伝統技術を現代社会に活かすための手法研究となっている。制作物を用いたコンサートツアーも行われている。（別添資料 3711-i2-15） [2.1]
- 国・県指定の有形・無形重要民族文化財の修復、保存、人材育成のためにIoTを含むデジタル技術利用を積極的に推進している。破損が進み復元が困難になっていた高岡御車山の唐子人形（通町）について、デジタル3Dスキャン技術を用いた精度

富山大学芸術文化学部・芸術文化学研究科 研究活動の状況

の高い形状把握により、胴体修復ならびに展示用モデルの製作を行った。松の鉢（御馬出町）の復元新調にあたり、VR技術を用いることで、文化庁、関係者等との事前の技術的修復方法等の検討が可能となるなど、文化財の修復の質と精度の飛躍的な向上に貢献している（別添資料 3711-i2-16）。[2.1]

- 本学の研究の高度化と、産業界等に本学の研究シーズを紹介し大学への理解を深めてもらうこと等を目的とした「Toyama Academic GALA 2017」において、「芸文×工学連携プロジェクト」が優秀賞を獲得した。

なお、このプロジェクトにより制作した「世界初、電磁浮遊するワインデキャンタ（Carafage）」は、「イノベーション・ジャパン 2019」において、芸術文化研究領域では唯一の展示となった（別添資料 3711-i2-17～18）。[2.1]

- 本学部が所有する工芸品、制作道具、材料等を工芸各分野の歴史的、技術的意義を示すための実物資料として所蔵するとともに、これらを体系的に調査・研究するために、大郷コレクション（青銅花器）を主として、漆、木、竹、陶芸品などの、文化価値の高い貴重な工芸作品 896 品（収蔵予定も含む）の収蔵と整備を推進している（別添資料 3711-i2-19）。[2.1]

- 若手教員数の増加による研究促進及び男女共同参画の推進に向け、公募要項に、女性研究者の積極的な応募を促すメッセージを掲載している。また、募集対象の職階を講師又は助教に限定し、若手研究者が積極的に募集できるようにした。これにより、平成 29 年度以降に採用した教員 7 名中 3 名が 32 歳以下での採用となっている。[2.2]

<必須記載項目 3 論文・著書・特許・学会発表など>

【基本的な記載事項】

- ・ 研究活動状況に関する資料（総合文系）（別添資料 3711-i3-1）
- ・ 指標番号 41～42（データ分析集）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 作品、論文等に関する受賞数については、第 2 期中期目標期間の年平均 7.5 回から第 3 期中期目標期間の年平均 11.3 回に増加した。特に、国際水準の受賞数が第 2 期中期目標期間の 1 回から第 3 期中期目標期間の 4 回に増加している（別添資料 3711-i3-2）。[3.1]
- 工業ならびに工芸分野において特許出願を行っており（特許登録 5 件、特許出願 3 件）、特許登録された発明を基に行った企業との共同開発による製品化（1 件）を含め 2 件の製品が発売されている（別添資料 3711-i3-3）。[2.1]

<必須記載項目 4 研究資金>

【基本的な記載事項】

- ・指標番号 25～40、43～46（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部の特色ある専門性や「地域の伝統文化」、「地場産業」に対する取組により、地場産業製品開発、芸術文化資源活用等に関する知識を求められる存在となっている。これにより、外部資金のうち、学術指導件数及び金額については、平成28年度の4件1,179千円から令和元年度の7件8,643千円と、約7倍に増加している（別添資料 3711-i4-1）。[4.0]
- 研究者への科学研究費助成事業採択のための研修会や申請数向上のためのインセンティブ制度等の積極的な取組の結果、科学研究補助金の一人あたりの採択金額の年平均は、第2期中期目標期間の354千円から第3期中期目標期間の724千円に増加している。
また、研究推進機構産学連携推進センター（令和2年1月より研究推進機構学術研究・産学連携本部に改組）の産学官コーディネーターが、高岡キャンパスに週3日常駐し、外部資金獲得向上に向けた相談体制を構築している。[4.0]

<選択記載項目 A 地域連携による研究活動>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 「文化創造都市」を目指す高岡市との連携協定により、事業テーマに基づく研究を実施している（別添資料 3711-iA-1）。地域の伝統産業との連携による革新的デザインの創出に向け、地域関係者等と協働で地域の伝統に関する研究推進及び人材育成を行っている。[A.1]
- 主に富山県西部を中心とした県内自治体等との連携による受託研究、受託事業等を実施している（別添資料 3711-iA-2）。
このうち、高岡御車山保存修理事業（資料内 2, 4, 9, 11, 13）の実施にあたっては、IoTを含むデジタル技術を利用し、3Dスキャン技術による形状把握やVR技術を用いた技術的修復方法等の検討を行うことで、文化財の修復の質と精度を飛躍的に高めている。[A.1]
- 平成元年度に、本学と三井不動産株式会社との間で、研究を軸とした人材交流・育成、まちづくり、社会学共創事業等の幅広い分野における、地域の発展及び活性化

富山大学芸術文化学部・芸術文化学研究科 研究活動の状況

に協働で寄与するための組織的連携協力協定を締結した。

これにより、本学部では、アウトレットパーク北陸小矢部を拠点として、「アウトレットモールにおけるプロジェクションマッピングの可能性の探求」、「チョコレートアートを利用した新しい地域おこしに関する研究」等の、地域社会に密着した研究に取り組んでいる（別添資料 3711-iA-3）。[A. 1]

<選択記載項目B 国際的な連携による研究活動>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 部局間交流協定締結校との定期的な交流展開催を中心に国際的な制作・研究の連携を図ると共に研究分野ごとに関連性の強い国との個別交流に取り組んでいる（別添資料 3711-iB-1～2）。

このうち、トリブパン大学（ネパール）と組積造建築の補強に関する共同研究に関して、研究に基づき、令和元年度科学研究費補助金国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))の採択を受けている。[B. 1]

<選択記載項目C 研究成果の発信／研究資料等の共同利用>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 地域との連携による研究活動等の成果について、地元企業、地元在住の職人、専門家と連携し、成果を発信するための取組を実施している。また、研究成果となる作品や研究について、富山県内だけでなく全国的な展覧会等で発表し、成果発信を行っている（別添資料 3711-iC-1）。[C. 1]

- 部局間交流協定締結を行っているパタナシン芸術大学（タイ）との交流の一環として、平成28年度は富山市ガラス美術館、令和元年度はタイにおいて、本学教員及び大学院生と先方大学教員の作品を展示した国際交流展を開催した（別添資料 3711-iC-2）。[C. 1]

<選択記載項目D 総合的領域の振興>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 研究成果の地域社会実装化にあたり、本学附属病院におけるホスピタルアートの取組の実施に向け、学部内にホスピタルアートWGを設置している。WGにおいては、他大学の附属病院等における先進事例としての取組について調査を行っており、令和2年度の附属病院でのアート展示の実施に向け、附属病院と検討を進めることとしている。（別添資料 3711-iD-1）[D.1]

- 特定非営利法人 ITS Japan の「ITS 長期ビジョン 2030」に描かれた将来像の実現に向け、「協調型 ITS 次世代サービス」のビジュアル化に関する学術指導等として、デザイン思考を基にした各項目のビジュアル化や、それを基にした包括的世界観のビジュアル化に関する学術指導を実施している。[D.1]

<選択記載項目 E 学術コミュニティへの貢献>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

<必須記載項目 1 研究業績>

【基本的な記載事項】

- ・研究業績説明書

(当該学部・研究科等の目的に沿った研究業績の選定の判断基準)

本学部・研究科は、芸術文化分野における問題を、発見・解決する人材育成を目的とし、専門分野を超えて学べる教育システムを特色としている。したがって、芸術文化分野に幅広く関連する、革新に繋がる能力を涵養する教育提供が重要であると考えている。また、地域の問題を解決するために実践型教育を実施という点も考慮している。

これらを踏まえ、地域の文化や産業の発展に資する高く評価された業績を選出した。査読付論文、審査付作品展示、学会賞・公募展等受賞、依頼著書、依頼作品制作、書評などで評価された著書・作品などの国際的・全国的な業績で芸術文化の学術発展に寄与する学際性・新規性・独創性・将来性・専門性・有用性を備えたという判定基準で研究業績を選定している。

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 日本美術院「大観賞」、MOA美術館「第20回岡田茂吉賞」大賞等の高名な公募展において優秀な成績を修めているほか、伝統工芸である漆芸に3D-CADを利用した、手業とデジタルの融合による作品制作を行うなど「伝統と革新」による芸術表現を行っている。[1.0]
- 「地域の伝統文化」、「地場産業」をキーワードに、デザインを通じた地域文化資源発掘・活用と地域振興のための実践研究や、伝統技法・素材展開による美術工芸・クラフト作品の制作による現代的価値観の研究を行っている。[1.0]
- 人間工学・伝統的人力運搬の研究成果を応用した製品の開発研究について、研究結果とデザインを融合し、商品として社会に流通させている。[1.0]
- 地方都市における斬新な建築表現が評価され、富山駅前バスシェルター等が2017年グッドデザイン賞を受賞するなど、建築デザイン及び建築構造デザインについて、理論体系の構築と実践（設計）の両面から研究を行っている。[1.0]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
5. 競争的外部 資金データ	25	本務教員あたりの科研費申請件数 (新規)	申請件数(新規)／本務教員数
	26	本務教員あたりの科研費採択内定件数	内定件数(新規)／本務教員数 内定件数(新規・継続)／本務教員数
	27	科研費採択内定率(新規)	内定件数(新規)／申請件数(新規)
	28	本務教員あたりの科研費内定金額	内定金額／本務教員数 内定金額(間接経費含む)／本務教員数
	29	本務教員あたりの競争的資金採択件数	競争的資金採択件数／本務教員数
	30	本務教員あたりの競争的資金受入金額	競争的資金受入金額／本務教員数
6. その他外部 資金・特許 データ	31	本務教員あたりの共同研究受入件数	共同研究受入件数／本務教員数
	32	本務教員あたりの共同研究受入件数 (国内・外国企業からのみ)	共同研究受入件数(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	33	本務教員あたりの共同研究受入金額	共同研究受入金額／本務教員数
	34	本務教員あたりの共同研究受入金額 (国内・外国企業からのみ)	共同研究受入金額(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	35	本務教員あたりの受託研究受入件数	受託研究受入件数／本務教員数
	36	本務教員あたりの受託研究受入件数 (国内・外国企業からのみ)	受託研究受入件数(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	37	本務教員あたりの受託研究受入金額	受託研究受入金額／本務教員数
	38	本務教員あたりの受託研究受入金額 (国内・外国企業からのみ)	受託研究受入金額(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	39	本務教員あたりの寄附金受入件数	寄附金受入件数／本務教員数
	40	本務教員あたりの寄附金受入金額	寄附金受入金額／本務教員数
	41	本務教員あたりの特許出願数	特許出願数／本務教員数
	42	本務教員あたりの特許取得数	特許取得数／本務教員数
	43	本務教員あたりのライセンス契約数	ライセンス契約数／本務教員数
	44	本務教員あたりのライセンス収入額	ライセンス収入額／本務教員数
	45	本務教員あたりの外部研究資金の金額	(科研費の内定金額(間接経費含む)＋共同研 究受入金額＋受託研究受入金額＋寄附金受入 金額)の合計／本務教員数
	46	本務教員あたりの民間研究資金の金額	(共同研究受入金額(国内・外国企業からのみ) ＋受託研究受入金額(国内・外国企業からのみ) ＋寄附金受入金額)の合計／本務教員数